

漁労作業とライフジャケットとの適合性

水産業システム研究センター

研究の背景・目的

海中転落時に漁業者の命を守るライフジャケットについては、その着用義務範囲の拡大が検討されています。ライフジャケットには固型式、膨脹式など形や大きさもさまざまですが、着用が漁労作業の支障となるおそれもあります。漁労作業に適したライフジャケットの普及をめざし、主要な漁業種類について漁労作業とライフジャケットの適合性を調査しました。

研究成果

漁業者に各種ライフジャケットを試着していただき、作業に支障がないか調べました(図1)。アンケートと聞き取り調査により、漁業者がライフジャケットについて日常感じている利点、問題点を整理しました(図2)。その結果、ライフジャケットの軽さや脱着の容易さが高い評価を受ける一方、夏季着用時の暑さについての不満が多く寄せられました。刺網漁業ではライフジャケットのヒモなどが漁具に巻き込まれる危険性があること、のり養殖業では船縁に寄りかかる際に支障が生じる場合があることなどが指摘されました。

波及効果

漁労作業の支障にならないライフジャケットが普及することで、ライフジャケット着用率の向上が期待できます。漁業者から得られた意見をもとにライフジャケットの改良が期待できます。

(本研究は、水産庁「安全な漁業労働環境確保事業(補助事業)」の一環として、(一社)全国漁業就業者確保育成センターの委託により実施しました。)



図1 ライフジャケット着用中の動作の比較例 図2 作業への支障と改良の方向の検討例

(水産業システム研究センター:高橋秀行、水産土木工学部:佐伯公康)